

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者側からの思いも、理念としてつくりあげ、各ユニットに誰もが見えるところに掲げ、日常的に職員が意識をして介護している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を共有できよう、ミーティングの折に再確認し、理念の実践に向け取り組んでいる。	○ アンケートにより職場の理念を確認したところ職員全員が理解していた。しかし理念に添ってチームケアが実践できるように取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては利用者の暮らしぶりや様子を便りや伝えているが、地域への広報の取り組みはやや不足しているように思われます。	○ 今後は地域に向けてグループホームの趣旨や内容を広めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩やコンビニエンスストアに買い物に行くこともあり、顔なじみとなつて挨拶を交わしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や花まつり等の行事に参加している。	年を毎に利用者も年度化し、地域との交流も難しくなっているが、行事等には参加できるように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	リーダー研修を受講したので、ショートステイ等地域に貢献できるか検討していきたい。	○	定室を利用してショートステイを実施していく方向で検討しています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミテレグの所に自己評価及び外部評価の意義を学ぶ職員一人ひとりが理解し改善に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を毎回実施し、構成員からの意見や要望を聞きながら、サービスの質の向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との関わりは調査や研修会等の事務連絡程度で積極的な協力関係は至っていない。	○	今後は市町村と深くかかわる機会をもち、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度を認識した上で、実際必要としている人にそれらを活用できるよう支援していきたい。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意味を職員一人ひとりが学び、その意識をもちながら介護をし、虐待「ゼロ」に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は、利用者、家族に十分な説明を行い、理解や納得をしっかりと図る上で締結している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や不満、苦情がある場合、気兼ねなく表現できるように、玄関に意見箱やアンケート用紙を置いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節毎に暮らしぶり便箋を作成し、利用者の暮らしぶりや近況を報告し、実際金銭収納明細のメモを添付している。又、家族の訪問時には承認をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を気兼ねなく表すことができるよう苦情受付窓口を設け、それらを運営に反映させていきたい。	○ 現在のところ、直接苦情や不満は聞かれないが、常に職場の理念を頭に置き、ケアを実践していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや機会ある毎に職員の意見や提案に耳を傾け、できる範囲で反映させていきたい。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、職員を配置している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐ為、職員の異動は必要最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には業務に支障をきたさばい程度で積極的に参加を促し、知識や技術の向上に努めるよう支援している。		研修会に参加して職員が職場に於き研修報告も職員全員が学ぶ機会がある。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流を図り、情報交換をしながら質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	○	研修会を通じ、地地の同業者と交流する機会をもち活動を通じて、質の高いチームアップができるよう取り組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みやストレスを軽減する為、話し合う機会をもち解決に導いたり、時には外食等に誘う等取り組んでいる。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりがモチベーションを高めながらチームアップができるよう、月1回勉強会を開催し参加することによってそれぞれが意識改革しながら働けるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時、本人の困り事や不安な事に対し耳を傾け、特にかかわりをもつよう接し方に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の段階に家族と話し合い、不安や求めていることに対し、理解を頂くまで説明を行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向や本人の生活障害を見極めそれに対応できるように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して施設生活に馴染めるよう本人の希望を確認しながら対応できるように努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の過去の経験や知識を学び、それを一緒に楽しむ共生関係から支えあう関係と持っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には折にふれ利用者の状態を報告したり、行事に誘う等して共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の訪問があったときは、ゆくり時を過ぎせるよう配慮し、希望があれば外出や外泊もしていたり、家族との関係が維持できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しくしていた友人や近所の人とつばがりを大切に頂く為、気軽に訪問できるように配慮し自然な形で歓迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないよう目ぼくし、利用者同士の仲間つばりを支援し、親しい関係が保てるよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した利用者や家族ともつばがりをもち、連絡を取ったり、相談に応じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの歴史や人格を尊重し その人に合った対応ができるよう 心掛けている。	○ 利用者の個別に応じた対応が できるようチームで学んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人に生活歴を 尋ねたり、日常生活に於て若い頃の話を 聴く中でその人の暮らし方を把握するよう 努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりに、目くぼく、鼻くぼくをし 孤立していないか、又、状態に変化が 無いかな常に把握することに努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現状を把握(本人の気持ち 優先に、家族の意見も取り入れた ニーズを決め介護計画を作成している。	○ スタッフ全員が共有し、ニーズにそって ケアができるよう取組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを開き、利用者の状態 の変化に応じて目標を決め見直しを 行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の生活や状態を個別記録に記入し、スタッフが共有しながら介護計画や見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状態や状況に応じ柔軟な対応ができるよう母体である医療法人と連携を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の各方面に働きかけ必要に応じて協力を頂きながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャー同士との連携はとれているので、他のサービスを利用する場合必要に応じて支援していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の日常生活や状態を報告して都度連絡をとっている。	○	今後もさらに連携を図っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連医療機関に外来受診・訪問診療・訪問歯科も行っているが、利用者、家族の希望される病院での診療も受けられるよう支援している。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連医療機関との連携を密にとり適切な方法を相談している。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体である病院の看護職員の定期的な訪問があり気軽に相談できる状況にある。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入退院時には母体の病院と連携を図り、医師や看護師と情報交換をし協力体制にある。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化傾向にある利用者家族には早期に状態を説明し、受け入れ先に病院や施設を確保していることを伝えている。	○ 当施設での看取りケアに関しては明確化されていない為、利用者の重度化に向けて今後は家族とも話し合う機会をつくっていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者がグループホームでの生活が困難となった場合、医療機関に相談し今後の対応策を検討する。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	本人が自宅や病院からグループホームに 移り住む際、家族や医療機関の ケア等を活用して話し合い、環境の 変化によるダメージを防ぐよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	本人の自尊心を損ねないよう言葉遣いや 対応に配慮し、記録等の個人情報の 取り扱いには十分注意を払っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人の希望や訴之に耳を傾け、一人ひとりに 合わせて声かけをし、自己表現できるよう 支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	本人のペースに添って対応し、なるべく 無理強いはしないよう努めている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人に合った身だしなみに配慮し 理容・美容は本人の希望する髪型に 髪染めをするなど努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みに応じるのは難しいが、軽音楽を流し、会話を楽しみながら、職員と一緒に食事をしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好に合わせては困難であるが、嫌いな食品に関しては別物で対応している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	毎日、排便チェックを行い、排泄パターンを把握し、声かけ、誘導を行い、失敗やおむつの使用を減らすよう支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、一人ひとりの希望に合わせて入浴は難しいが、「くつろいで入浴ができるよう、着靴心の強い方にはカーテンを使用する等配慮している。	○	毎日、いずれかの棟で入浴（しているので希望者には入浴して頂くよう支援していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩や軽い運動を行い、日中の活動を通じて利用者に合わせて生活のリズムをつくり、気持ち良く眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の楽しみ事や趣味等を把握し、それぞれが参加できるような場面をつくり、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により買物に同行して好みの菓子や雑誌を購入し、支払いを確認している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ねて近くのコンビニに行ったり中庭で食事したりお茶を飲んだりして屋外に出かけるよう支援している。	○	可能な限り、外出の機会をつくり希望に添えるよう取組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年中行事に行っている花見やぶどう狩りを行い、利用者に楽しんで頂けるよう支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者と家族が自由に電話で話せることができるよう支援したり、手紙の投函を依頼されることもしばしばある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が気軽に訪問し、歓談できるような雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による精神的弊害を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全性を考慮し玄関ロビー自動ドアを調節している。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら常に所在を確認し、見守ることにより安全を確保している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品や危険物・薬剤は保管場所を決めた職員が管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成し、各ユニット毎に職員の見えるところに掲示して、いざという時に適切な行動がとれるようにしている。	○	緊急時対応マニュアルを全職員が熟知しているが不明である為、今後は全員が徹底できるよう話し合っていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員数は応急手当の学習や訓練を受け急変や事故発生時に対応できるようにしているが一部訓練を受けていない職員がいる為、全員が対応できるよう取り組んでいく。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に総合訓練を実施し、地震や火災等の災害時に昼夜を問わず避難できるように取り組んでいる。	○	夜間人手が少ない時の避難訓練を実施したが、実際緊急事態が発生した場合徹底できるか不安が残った為、今後も検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	利用者にとってリスクは日常的にあるが、職員が 常緊張感をもって見守り、安全に生活が送れる よう、時にはマニュアルを見直す等の対応策を 話し合う必要がある。	○	リスクを軽減する為にはどうしたらいいか ミーティング等で話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	利用者一人ひとりの体調の変化に気を配り、異変を 発見した場合、バイタルチェックを行い、速やかに 医療機関に連絡(指示)を受ける。		
74	利用者一人ひとりの服薬管理を作成し、 職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
75	毎日、排便チェックを行い、便秘を予防する為、 毎日、軽い体操や歩行練習を行い、又 水分の補給にも留意している。		
76	基本的には口腔ケアは声かけにより本人に 任せているが、状態に応じて、食後、職員が 誘導し介助を行い、清潔を保つための支援 している。		
77	利用者の食事は栄養士の献立によりバランスの とれた食事となっているが、状態に応じて 補食や水分補給に十分配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルがあり、特に冬場には手洗、うがい、換気等を徹底し、インフルエンザを予防している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒を予防する為、調理器具や食器の消毒を励行し、調理担当者は衛生手洗いを行ってから調理に携わっている。食材は毎日、母体の施設へ運搬している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者、家族、近隣の人達が安心して出入りできる為、季節の花やベンチを置き親しみやすい雰囲気にしていく。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺の不快な騒音者が多いからガラスを二重構造とし居間には利用者の作品を飾り居室には季節の花を差し居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには長椅子を置き、利用者同士がテレビを観たり、雑談を（思い思いに）過ごし個室では洗たく物をたたくなど自由にくつろげる場戸外とつながっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室には本人の好みの鉢植えや、タンス、賞状等 思い出の品物が自由に置かれ、居心地よく 過ごせるよう工夫をしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大きな 差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常ににおいには気を配り、こまめに掃除を行 換気には十分留意している。温度調節は 利用者の状態や要望に応じてこまめに 行っている。		・ホールには温度計を置き利用者が毎日 観察を行っている ・こまめに掃除を実践した結果、利用者家族より 不快感が無いとの言葉をいただく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	建物内部はオールバリアフリーで手すりも付いて いる為、車いすでも自由に各ユニットに訪問 でき、安全に生活が送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレや風呂場、又状態に応じて居室入口に 目印をつけ、混乱を防ぐ工夫をしている。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	各ユニット毎に、庭を利用し火炬をつくり、 野菜の収穫や花を植え、中庭では 日向ぼっこができるような工夫をしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

介護計画を職員全員が共有し、利用者一人ひとりの個性に添ったケアができるよう
毎月1回、短時間ではあるが勉強会を開きサービスの質の向上に取り組んでいる。